



総体・駅伝競走で襷(たすき)の中継(11月3日 勤労者体育センター脇)

主な内容

- 第51回加茂市展入賞作品紹介 …… ②⑤
- 第15回加茂菊花展開催 …… ⑥⑦
- 加茂郷菊花同好会菊花展 …… ⑦
- 加茂の風土記
「古代の漆付着土器について」… ⑧

百年に一度の唯一の好機！

新加茂病院に産科の個室20室を確保しました！ 妊婦の方々は、皆個室を希望しています。

新加茂病院の隣りに病児保育園を確保しました！ お金は加茂市と田上町が負担！

この二つこそ絶対必要な少子化対策！

産科の個室が1つでは、医師も妊婦もやって来ず、産科は実現しません。

第51回 市展

市展賞受賞作品

11月3日から7日まで第51回市展（加茂市美術展）が市民体育館で開催され、会期中には大勢の皆さまから来場していただきました。ここでは入賞した作品を紹介します。

日本画

「夏つばき」中野千佳子さん



洋画

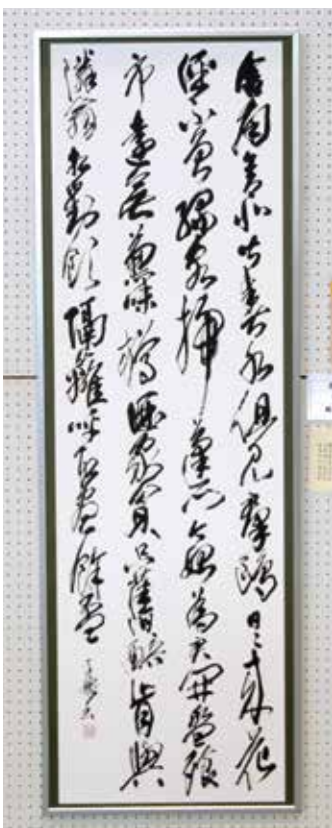


「秋色の池畔」山際正夫さん

彫刻

工芸

書道



「客至」鶴卷子婉さん



「スクウェア」永井元子さん



「盛夏にひらく」
小柳美佐子さん

写真

「落陽に染まる」
三浦ヒロイさん



第51回 市展 新潟日報美術振興賞受賞作品



工芸「(革染)華天昇」
小川千恵さん

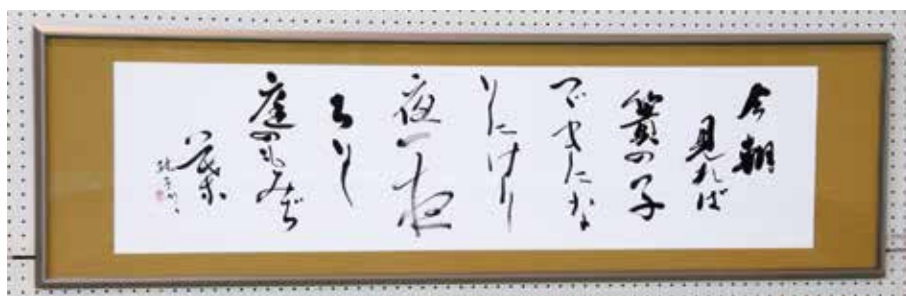


写真「わんぱく坊主」
樋口八重子さん

書道「与謝野晶子のうた」小池明苑さん



第51回 市展 奨励賞受賞作品



書道「橘曙賢の句」石黒純子さん



日本画「冬の浅間大滝」
安中美知枝さん

洋画「タイム・スリップ(大内宿)」
福井三男二さん



書道「古今和歌集より」
大橋香汀さん

第51回 市展 奨励賞受賞作品



工芸
「佐渡金山世界遺産へ」
泉田ウメさん



工芸「南回帰線の森」
鶴巻ジュディさん



書道
「島崎藤村「夜明け前」より」大桃伊志さん



写真「秋と孫」
鶴巻ジュディさん



写真「ひととき」
外石智慧子さん

第51回 市展 振興賞受賞作品



写真「思う」
川崎祐未さん



洋画「日本文化」半間結さん

第五十一回市展の各部門で市展賞を受賞された皆さんから感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介いたします。

【日本画】「夏つばき」

中野千佳子さん

今年の猛暑にも、「夏つばき」の白い花が開きました。「いつか、この花を絵に描きたい」と、いつも思っていました。この木の幹の模様と色合いの美しさ、枝いっぱい咲き、一日で散る白い花の組合せを表現したつもりです。

絵を描き始めてから今まで、自分の周りにある草花や木の、色や形をよく観察して、スケッチを続けています。いろいろな花の中で、特に白色の花が好きです。しかし白花は絵に描くには難しいです。

今回、白い花「夏つばき」で賞をいただき、心から感謝申し上げます。これを励みに、これからも絵を続けていきたいと思えます。

【洋画】「秋色の池畔」

山際正夫さん

この度は第五十一回加茂市展において「秋色の池畔」が市展賞という身に余る賞を頂き、感謝致しております。

昨年の秋が深まった頃、加茂山を散歩した際、自然の小京都にふさわしい雰囲気なマッチした場所を描いてみたいと思いました。また自分で

も題材に行き詰まっておりましたので、心機一転、初めての風景に挑戦してみることになりました。

そこで池ノ端を一巡した後、帰りに御蔵の堂の吹き抜けから見た紅葉の木々の姿が目に入り印象的でしたので、さっそく描いてみました。

教室でも御指導頂いた先生をはじめ同僚の激励共に感謝の気持ちでいっぱいです。これからはこの賞を励みに可能なかぎり楽しみながら描き続けていきたいと思えます。

【彫刻】「盛夏にひらく」

小柳美佐子さん

この度は栄えある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。

学生の頃より、美術や芸術といったものにまったく縁がなかった私ですが、ワークショップで木の葉の彫刻を作ったことがきっかけで、作ることの楽しさを知りました。

今回の作品は、鉄板を溶接し、炭を熾して鉄板を熱し、叩き、汗だくで取り組んだ作品です。四十度を超す一番の暑い日に火を焚いて作業していたことを思い出します。初めて挑戦した溶接に、最初、不安もありましたが、指導頂いた先生や共に作品に取り組んでいる彫刻のお友達に背中を押して頂き、完成することができました。ほんとうに感謝しております。

これからも加茂市展の発展を祈念いたしましてお礼の言葉とさせていただきます。

【工芸】「スクウェア」

永井元子さん

六年前、公民館の陶芸に行っていた友達から。会員が減って公民館活動ができなくなりそうなので、陶芸のゆきつばき会に入らないかと誘われたのが、陶芸をやるきっかけでした。

私も前からお義姉さんが、亀田で陶芸をやっていたので、私もいつかやってみたいと思っていました。その頃環境的にもできる状態だったので、すぐに入会しました。木曜日には、お弁当を作り、午前十時頃から午後三時すぎまで陶芸をやり、家で一人でお昼を食べるより、皆と一緒に食べるお昼は、又格別です。

最初は先輩の方から指導して頂き、茶碗やお皿、花瓶などを作って楽しんでいました。その後、坂上和雄先生から月二回ご指導して頂く様になり、市展に出品する様になって、今回で三回目です。まさか市展賞ももらえるなんて思ってもいなく、驚いています。先生の熱心なご指導のお陰で今回賞を頂く事が出来たのだと思っております。

これからも吊けない様に陶芸を楽しんでいこうと思っております。

【書道】「客至」

鶴卷子婉さん

この度の受章に際し、心より感謝申し上げます。

長年、書の先生の下で古典の書を徹底的に指導受けてまいりました。

近年教室が閉鎖され指導者を失い、書の続行を悩んでおりました。心の整理がつかないまま、先ずは書の古典を改めて勉強することから始めようと考えた矢先です。この市展出品もそんな迷いの中、短期決戦での作品です。とにかく一字一字間違いないよう必死に書道字典との睨めっこ。中国への旅で得た感動と作品の数々を脳裏に浮かべ、思いつくまま中国の漢詩を題材にしました。

今は書との格闘のためだけでなく、ゆったり気分墨を磨り、書道字典をべらべら。こんなひと時に安らぎを感じています。

ありがとうございます。

【写真】「落陽に染まる」

三浦ヒロイさん

栄誉ある市展賞をいただき、驚きと感謝でいっぱいです。

この作品は、夫と数回撮影に行った場所、途中、菊が見事に咲いて田んぼの稲を守っている様でした。花が一番美しく咲いている場所を見つけ、草むらにしゃがんでみると村の人に「いいの撮れたかね」と声をかけていただき「はあい」と何か、ほっこりした気分で撮影させていたのだいた一枚です。

賞をいただいた事を励みにして、これからも人との出会いを大切に、体に気をつけ、ゆつくりと楽しみながら続けていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

第十五回 加茂菊花展

「菊香る越後路」

第十五回加茂菊花展が十一月六日から二十五日まで、冬鳥越スキーガーデン特設会場で開催されました。

今年は百九十四点の作品が出品されました。六日午前中に新潟県菊花連盟副会長の武田三郎先生と同前中菊副部長の小林與三郎先生から審査していただき、八部門の入賞作品三十二点とその中から総合賞が決まりました。

表彰式で小池清彦市長は「花を愛する人は、心がやさしく、美しい人であります。菊の花は一年を通して愛情を注ぎこまなければならず、その御苦労に感謝し、楽しませていただきます。」とあいさつしました。

審査された武田三郎先生からは「今年の猛暑の中、丹精込めて育ててきたことが、出品された作品すべてから感じられます。」と講評をいただきました。

表彰式後には、さっそく訪れた方々が、様々な彩りの菊を楽しんでいただいています。今年の加茂菊花展で入賞された皆さんは次のとおりです。

【総合賞】

市長賞Ⅱ懸崖「大黄丸」 渋谷忍（白根）

二等賞Ⅱ盆栽「多摩景勝」 渋谷忍
三等賞Ⅱ木付け「輝」 松田満（上下条）

部門賞

■管物三幹

優秀賞「泉郷富水」 高橋輝継（加茂）



茂）・一位「天女の名所」 高橋輝継
・二位「泉郷富水」 相田哲司
（加茂）・三位「天女の名所」 高橋輝継

■厚物三幹

優秀賞「国華金山」 相田哲司・一位
「国華金山」 相田哲司・二位
「国華万無」 大竹与市（白根）
三位「太平銀峰」 大竹与市、
「太平の銀峰」 高橋輝継

■懸崖

優秀賞「大黄丸」 渋谷忍（白根）

■七幹立

優秀賞「聖光朝」 安中朝次（加茂）
・一位「清見清滝」 大竹与市



市長賞を受賞した懸崖「大黄丸」
（白根・渋谷忍さん）



厚物三幹部門・相田哲司さん



管物三幹部門・高橋輝継さん



だるま部門・高橋輝継さん



中菊部門・成澤一男さん

二等賞を受賞した盆栽「多摩景勝」
（白根・渋谷忍さん）



駐車場に面した特設展示台

三等賞を受賞した木付け「輝」
（上下条・松田満さん）



■盆栽

優秀賞「多摩景勝」渋谷忍・一位
「ミカド」長谷川三作・「白朝」
長谷川三作・「多摩の景勝」長谷
川三作

■中菊

優秀賞「裾野ノ輝」成澤一男（新
津）・一位「宮ノ松」成澤一男・
二位「暁雲」大竹与市・三位「岸
ノ新世界」安中朝次、「江戸絵巻」
成澤一男、「肥後の美」田邊政一
（五泉）

■だるま・福助・切花

優秀賞「国華越山」高橋輝継・一
位「泉郷富水」高橋輝継・二位

「泉郷富水」高橋輝継・三位「泉
郷富水」大竹与市、「泉郷情熱」
高橋輝継、「泉郷富水」高橋輝継

■木付け

優秀賞「輝」松田満（上下条）・
一位「輝」清水清松（上下条）・
二位「白妙」清水清松・三位「阪
神の誉」涌井秀一（上下条）



七幹立・安中朝次さん



出品団体と審査員の皆さん

加茂郷菊花同好会菊花展

青海神社境内の亀の噴水脇で十
月三十日から十一月四日まで、加
茂郷菊花同好会菊花展が開催され
ました。期間中、市民体育館では
市展も開催され、会員の皆さんや
菊の初心者講習会で始められた方
の作品が展示され、色とりどりの
菊の花を楽しむことができました。



古代の漆付着土器について

奈良・平安時代の土師器や須恵器の内面や外面に、黒や茶色の皮膜が付着したものが市内の遺跡から多く出土している。それらの多くが科学分析により漆とわかりました。

写真①は馬越遺跡から出土した土師器の椀で、内面に黒茶褐色の漆膜がびっしりと付いている。この土器の用途は、木製品などに漆を塗るために篋（へら）や刷毛（はけ）などで漆液を調合するための漆パレットと考えられている。遺跡からは篋や刷毛などは発見さ

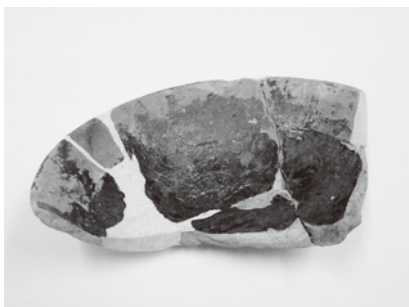
れていないが、集落内で漆塗り作業が行われていたことを示している。

写真②は鬼倉遺跡から出土した須恵器の杯底部で、斑点状に漆が

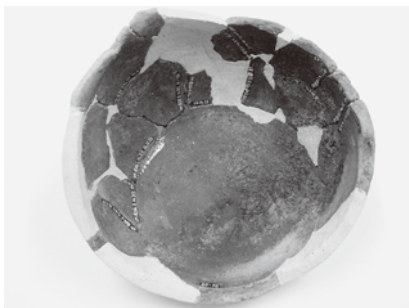


②鬼倉遺跡出土須恵器無台杯 (写真上)

③馬越遺跡出土土師器小甕 (写真左)



①馬越遺跡出土土師器椀



四つ付けられている。同様のものが市内の遺跡から四十点近く出土しているが、付けられた漆の数が一、二、三、四とあり、特に一と四が多い。それぞれ何らかの意味を込めて付けられたのであろう。墨書される文字と同じ文字が漆書きされるものもあるが、斑点状に数カ所付けられた漆は、記号の一種と考えられる。特に平安時代、九世紀前半の須恵器に多く見られる。県内のいくつかの遺跡からも同様の土器が出土しているが、五泉市新保遺跡から墨書が記された後に、墨書の上に斑点状に漆記号が付けられた例があり、用途を考える上で興味深い。

写真③は馬越遺跡から出土した土師器の小甕（かめ）で、内面にびっしりと漆が付着している。内面いっぱい漆液が溜められていた容器として使われたものである。このほか土器の補修のために割れ口に漆が塗られ、漆つぎされたものがある。

漆塗り製品ばかりではなく、道具のひとつとして利用された土器を詳細に観察することで漆文化の一端に迫ることができる。

(伊藤秀和)

あいちせとつ

社会福祉費寄付金

▼北陸ガス株式会社から

一万三千八百円

人口のうごき

11月1日現在
 世帯 10,267 (- 3)
 人口 27,299 (-18)
 男 13,277 (-16)
 女 14,022 (- 2)
 () 内は前月比
 (10月異動分)
 出生 14 (男 6 女 8)
 死亡 37 (男20 女17)
 転出 30 転入 35